

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	CQ16抗がん薬によるTMAに対して血漿交換は推奨されるか？
対象	抗がん剤投与時にthrombotic microangiopathyを発現した患者
介入	血漿交換
対照	

*バイアスリスク、非直接性
 各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
 まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

**上昇要因
 各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
 まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
 各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		有効であるか？																											
個別研究		バイアスリスク*						上昇要因**			非直接性*				リスク人数(アウトカム率)						効果指標(種類)			効果指標(値)			信頼区間		
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他																							
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分子	対照群分子 (%)	介入群分子	介入群分子 (%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間					
Cantrell JE et al. 1985	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0		0	0	0		-2	-2	0	0		0	0	6	6	Response of the							
Lesesne JB. et al.	横断研究	-1	-2	-1	0	-1	0		0	0	0		0	0	0	-1		0	0	37	37	Improve vs.							
Chow S. et al. 1986	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0						-2	-2	0	-1		0	0	4	4	Creatinine.							
Fisher DC, et al. 1996	横断研究	-1	-2	0	0	-1	0		0	0	0		0	0	0	0		0	0	15	12	Survive							
Humphreys BD. et al.	症例集積	-1	-2	-1	0	-2	0		0	0	0		-2	-2	0	-1		4	4	5	5	Required							

コメント(該当するセルに記入)

Cantrell JE et al. 1985	6例の症例	治療方法			調整され								左記の通	介入方法											
Lesesne JB. et al.	登録シス	血漿交換	詳細が不		対象者数																	詳細な基			
Chow S. et al. 1986	4例の症例	治療方法			調整され								左記の通	介入方法								詳細な基			
Fisher DC, et al. 1996	1施設の症例	統一され			対象者数																				
Humphreys BD. et al.	5例で大きく	詳細が不			調整され								左記の通	介入方法								詳細な基			